

豊田信用金庫におけるMMの取り組み

豊田信用金庫 ○野々山泰弘
 豊田市都市整備部交通政策課 堂山誠也
 愛知工業大学工学部土木工学科 伊豆原浩二
 公益財団法人豊田都市交通研究所 山崎基浩、○石井真

1. 背景

愛知県豊田市では事業所が主体的にMMに取り組むことを目的とした産官学共働の組織として「**豊田エコ交通をすすめる会**」を組織し、継続的に情報交換・勉強会等を実施

2008年～ すすめる会が発足し会員事業所従業員の「エコ通勤」を推進

2015年～ エコ交通意識醸成を目的とした小学生向けエコ交通出前教室を開催

2016年～ 会員事業所から希望者を募り、MM実践WGを立ち上げ、新たな交通手段転換者を生み出すことを目的として職場MMを実践

2. 豊田信用金庫におけるMMの取り組み

・MM実践WGに参加し、2016～2017年度に職場MMを実践した豊田信用金庫の事例を紹介

(1)MMアンケートの実施

<内容>

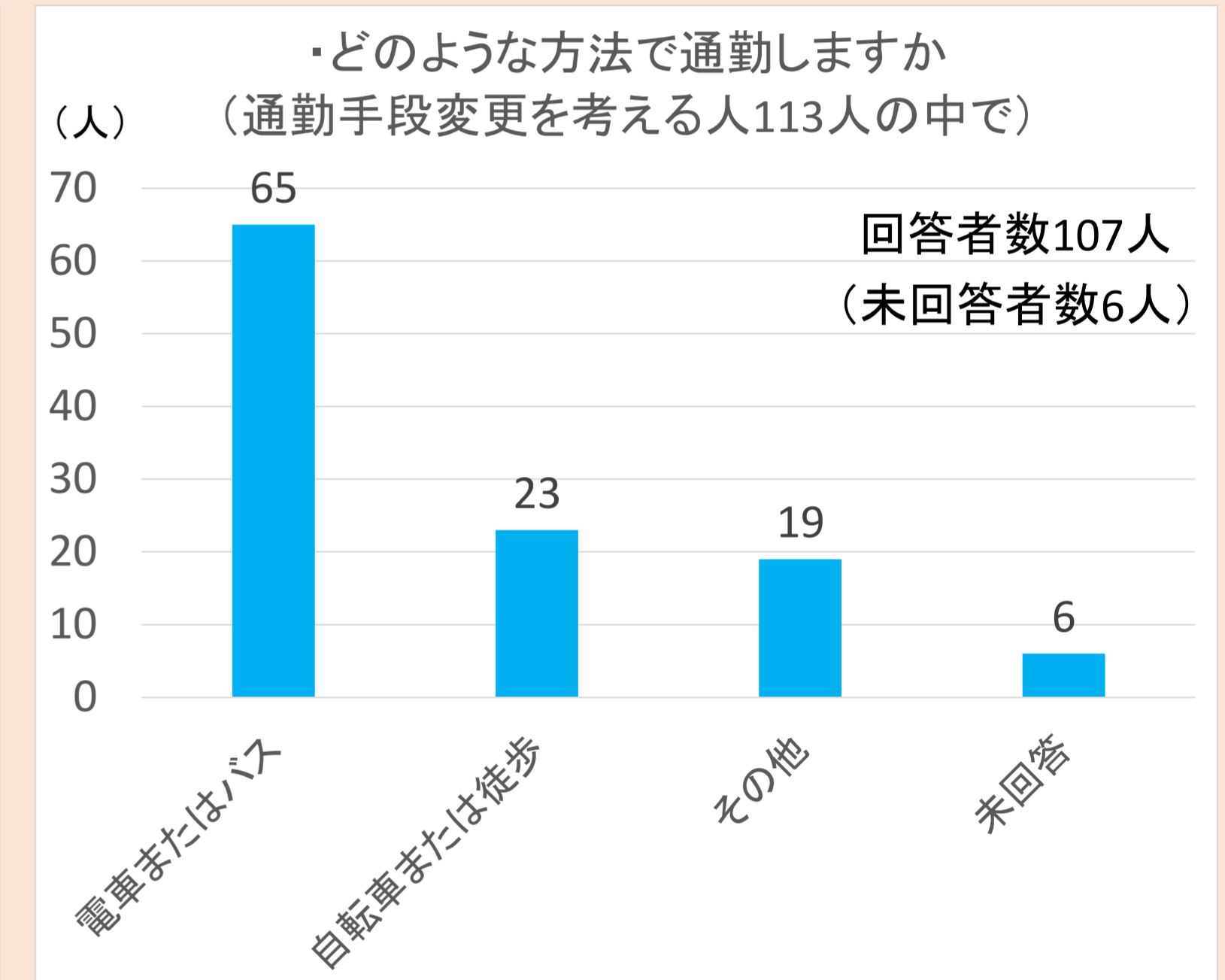
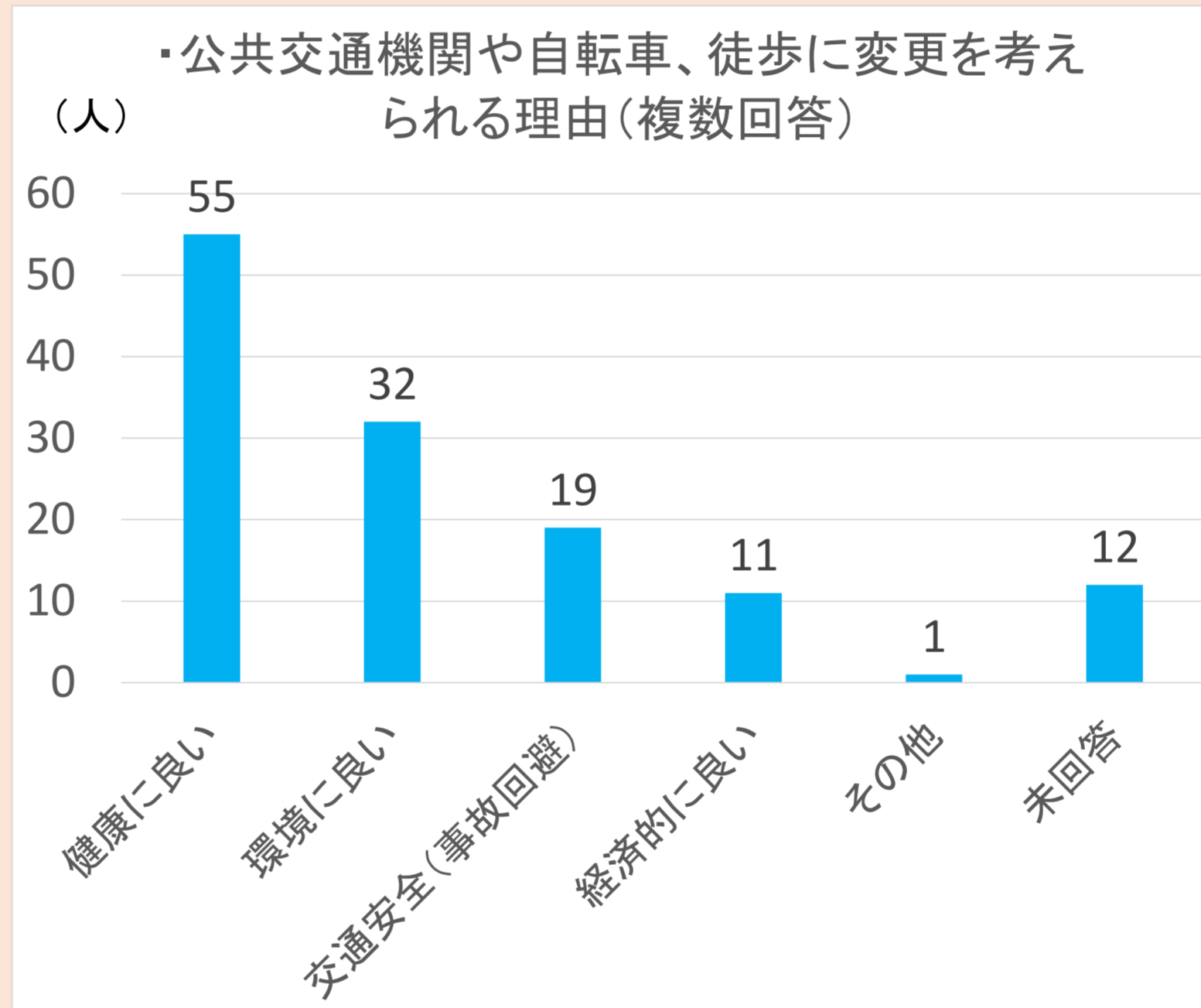
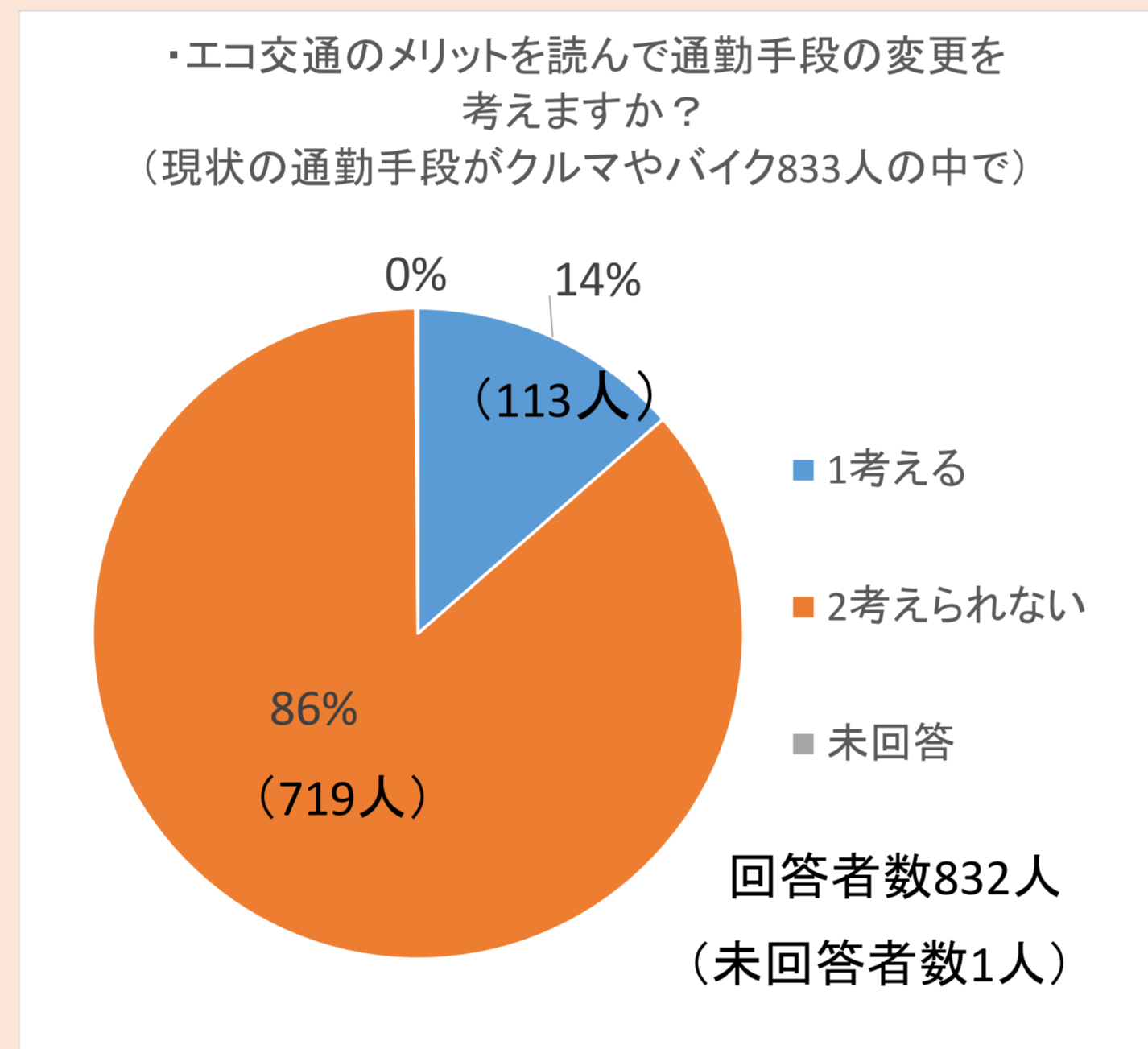
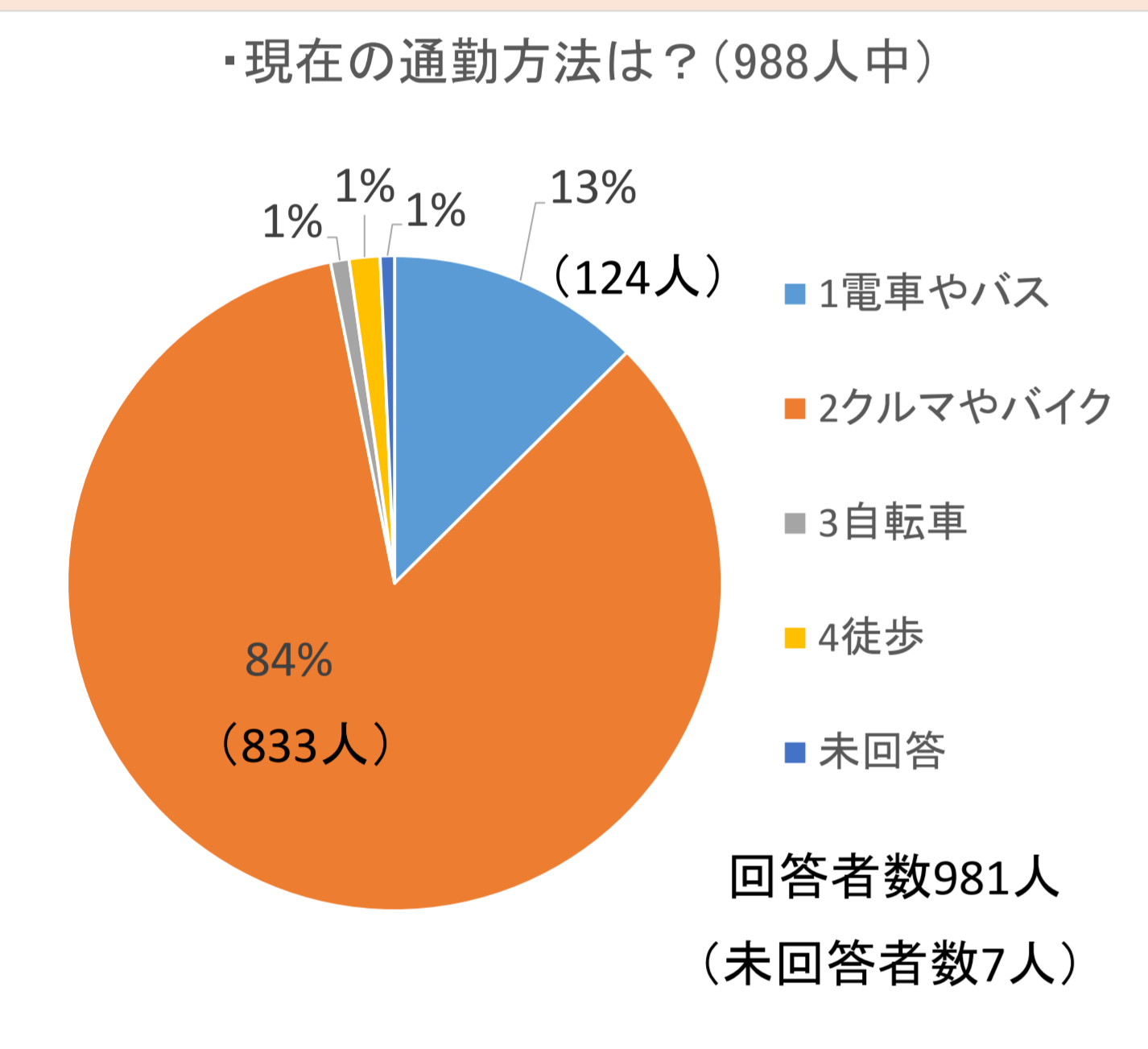
- ◆調査票: 国交省のMMアンケートをベースに独自作成
 - ・エコ交通メリット(健康、環境、交通安全、出会い等)、エコ通勤内規(自転車通勤にも通勤手当)の情報を提供し、交通手段転換を推奨
- ◆対象: 全従業員1,044人
- ◆回収: 988人(95%)、うち本店288人、支店700人

健康

- ・クルマがなくても通勤できるクルマ通勤者が意外といわれています。
- ・クルマ通勤者はエコ通勤者に比べて約1.5倍肥満の割合が高い。
- ・カロリー消費に役立つ。
- ・50kcal消費するにはジョギングで5分、自転車で13分、徒歩で15分、クルマで30分
- ・渋滞に巻き込まれず、イライラしない

図1. エコ交通メリット(「健康」の項目を抜粋)

<結果>



833人(84%)の通勤手段が「クルマやバイク」

113人(14%)が通勤手段の転換意向あり

交通手段転換理由は①健康、②環境、③交通安全の順

交通手段転換先は電車またはバスが多い

(2)健康情報の提供

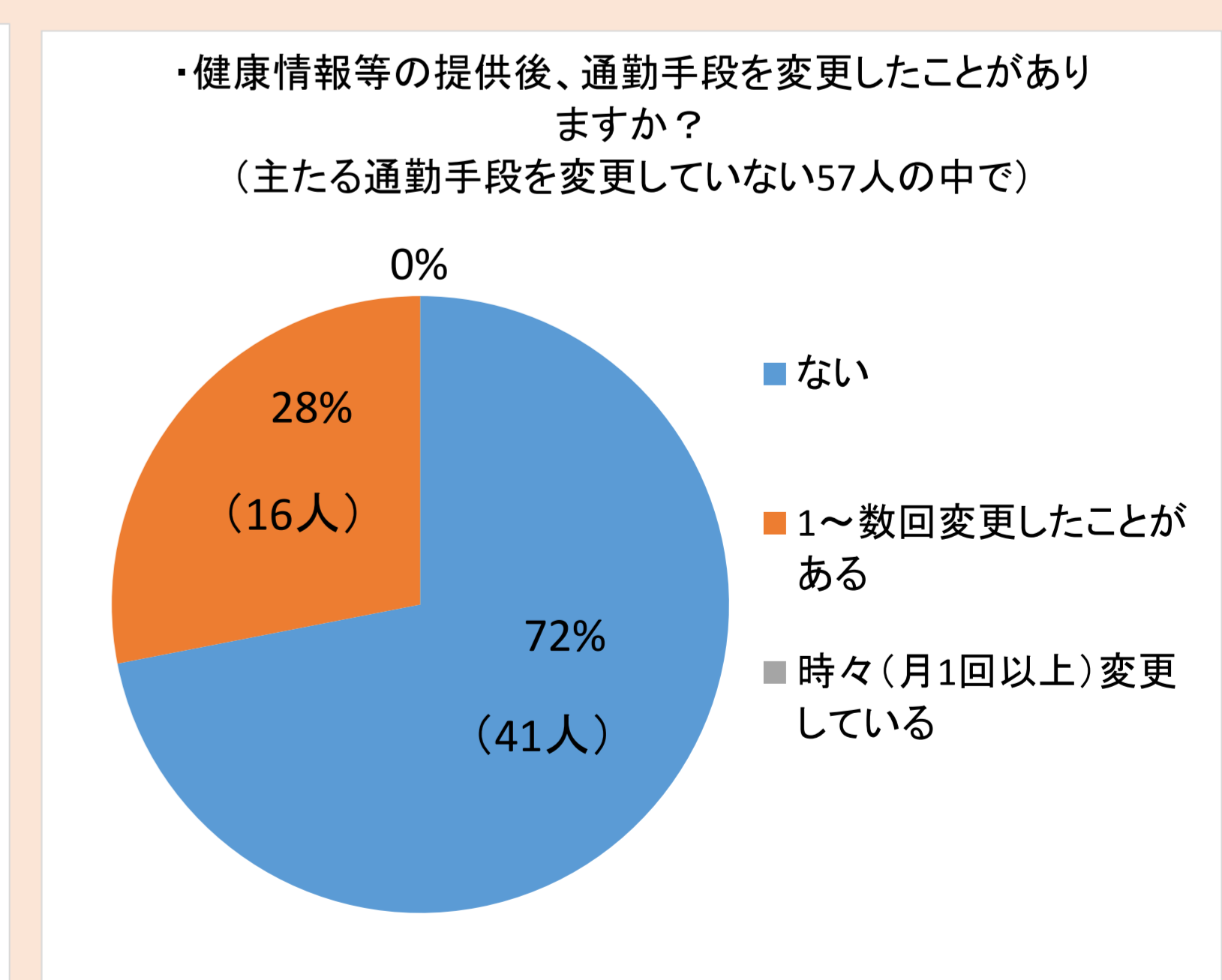
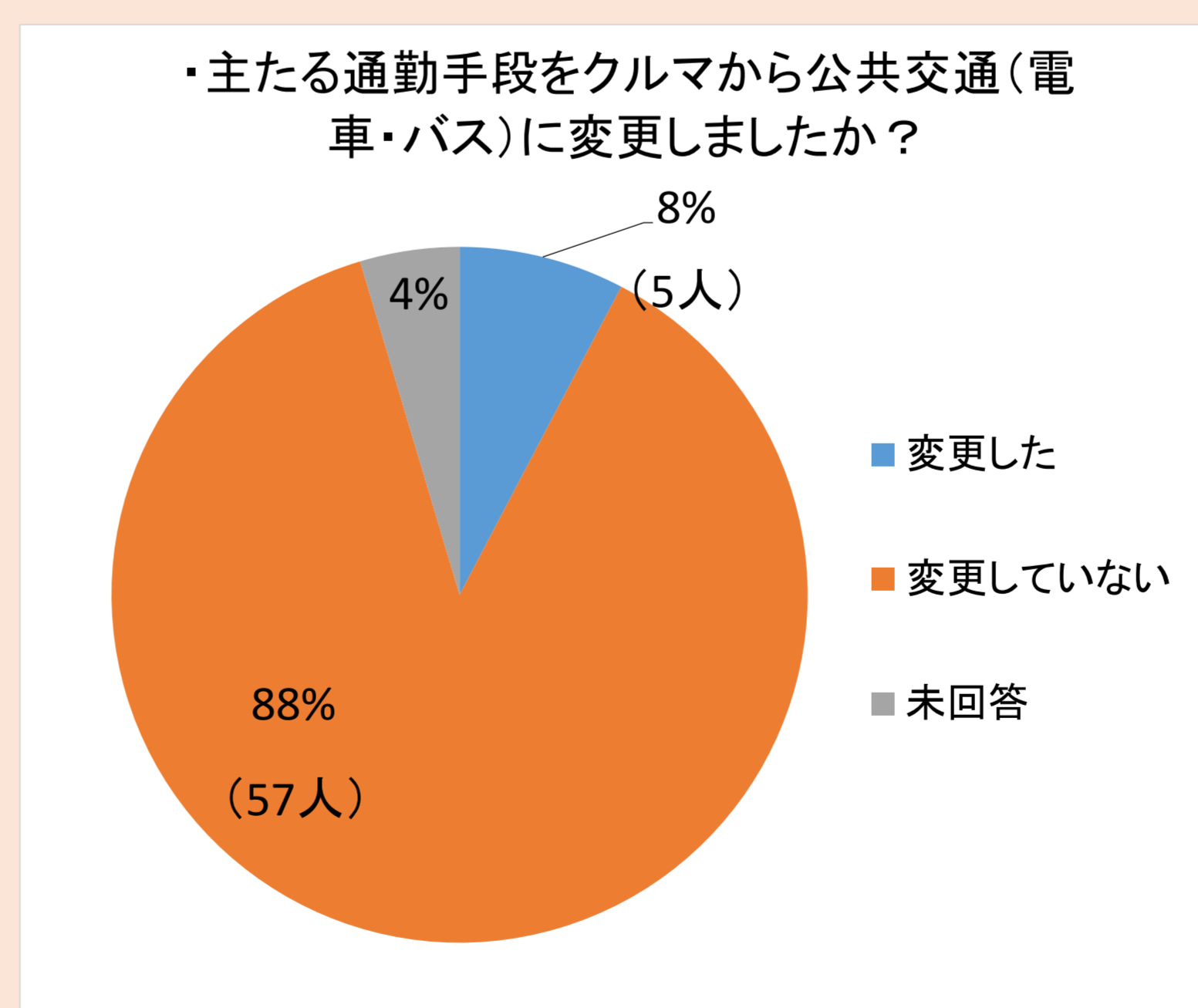
MMアンケートにて「電車またはバスに通勤手段変更を考慮する」と回答した方(65人)に**健康情報(※)及びバス時刻表情報を配布し、通勤手段変更を促進**

(※)健康情報に着目した理由

- ・MMアンケートの交通手段転換理由で最も回答が多い
- ・個人の交通手段転換促進のためには、環境等の公共的メリットがある内容よりも、健康等の個人にとってメリットがある内容を訴求する方が有効だという仮説

(3)MMの結果

65人中、5人(8%)が通勤手段をクルマから公共交通に転換 ⇒きっかけは転勤、転居だが、**健康情報提供により行動変容した**と考えられる



5人(8%)が通勤手段を公共交通に転換

16人が数回変更したことがあり、小さな意識の変化が見られる

(4)課題と今後の進め方

健康情報提供による効果は確認されたものの、交通手段転換を考えると回答した人数(113人)と実際に交通手段を変更したと回答した人数(5人)とのギャップは大きい ⇒今年度のMM実践WGの活動では、個々の属性や好みなどをより細分化し、それぞれに最適な情報を提供するなど、個別なコミュニケーションを試行

スマート・ライフ・プロジェクトを知っていますか？

厚生労働省が推進しているプロジェクトです。

運動、食生活、禁煙で健康寿命をのばしましょう。

運動: Smart Walkで健康寿命をのばしましょう。
 食生活: Smart Eatで健康寿命をのばしましょう。
 禁煙: Smart Breathで健康寿命をのばしましょう。

1時間で220Kcal

公共交通: 220kcal
 クルマ: 102kcal

図2. 健康情報